

令和5年度 御殿場市議会 経済環境委員会 行政視察報告書

1. 日程 令和5年7月19日(水)～7月21日(金)

2. 視察先及び視察事項

(1) 北海道北広島市

○ボールパーク構想について

(2) 北海道札幌市

○さっぽろグローバルスポーツコミッションについて

(3) 北海道夕張郡長沼町

○グリーン・ツーリズムについて

(4) 北海道恵庭市

○花の拠点 はなふるについて

3. 参加者

委員長 林 義 浩

副委員長 小 林 恵美子

委 員 永 井 誠 一 辻 川 公 子 杉 山 護

黒 澤 佳壽子 高 橋 利 典

事務局 桐 生 守

4. 視察先対応者

(1) 北海道北広島市

ボールパーク連携推進室 室長 柴 様

(2) さっぽろグローバルスポーツコミッション

事務局長 松 島 様

事務局次長 山 崎 様 ほか

(3) 北海道夕張郡長沼町

産業振興課 課長 柏 様

産業振興課 理事 三 浦 様 ほか

(4) 北海道恵庭市

花と緑・観光課 課長 廣 瀬 様

花と緑・観光課 主査 宮 川 様

5. 視察の内容

■ 『ボールパーク構想について』

日時：令和5年7月19日（水） 13：30～15：00

場所：北広島市役所 本庁舎

目 的

スポーツタウン御殿場のまちづくりの参考にする。

視察先の概要

道の西部、石狩平野の中央にあり、札幌市に隣接する丘陵地帯に位置する。明治初期に広島県人が開拓した。交通至便で、通勤・通学者の3分の1は札幌市に通うベッドタウン。令和5年3月にエスコンフィールド北海道が開業。

人口：57,166人 議員定数：22人【R5.4.1時点】

令和5年度一般会計当初予算額：305億9,627万円余

内 容

「青年よ大志をいだけ」が市民憲章に入っている北広島市は、昭和45年から持て余していた総合運動公園（32ha）を利用し、平成28年から日本ハムファイターズの球場誘致に名乗りを上げた。令和3年より工事が始まり令和5年1月「天然温泉やサウナに入りながら野球観戦」ができることなど世界で初めてだらけのボールパークが完成。天然芝を活用したボールパーク、エスコンフィールド北海道を中心に新しいまちづくりを始めた。

試合がない時でも楽しめる施設を目指し、球場やその周辺の構想、「温泉&サウナ」「クラフトビール工場」「ホテル併設」「農業学習施設」「心の施設」「認定こども園」「グランピング」「ヴィラ」「ロッジ」「ベーカリー」「アドベンチャー・パーク」「ドッグパーク」「自転車」「北海道17市町村の地場産品活用」「分譲マンション」「シニアレジデンス」などは日本ハムからの提案をなるべく意向に沿うように市がサポート。

防災対策、無電柱化、道路や鉄道などのインフラ、新駅の構想、市街化調整区域から市街化区域への編入、新町名となる「Fビレッジ一番地」の設置、駅前の複合施設、居住交流施設開発は市有地を活用、近隣16市町村と連携し北海道の価値魅力向上を目指す。などは市が担当。官民一体となって「ボールパーク」スポーツを中心としたまちづくりを目指している。

ボールパーク構想の判断は市長。住民説明会は職員が5地区に通った。反対意見が多

かった。財政などを気にしていた反対が多かった。説明会では協力要請をした。何もない北広島にとっては“夢”。

現在の課題は、交通。周知が行き届いていないため混雑している。

経済波及効果は決定から開業後15年間で4,500億円が見込まれる。

隣接のマンションは、発売初日に完売。北広島に居住して住民票を置く人を優先にした。

球場完成後、移住者が増えている。

今後は、シニア向け賃貸マンションを計画。1階にはメディカル複合施設を設ける予定。現在6医療機関が入居決定。

新千歳空港から札幌までの観光客は今までは素通りしていたが、ボールパークによって3か月で130万人来訪。目標は年300万人なので、良好だと考える。

「どうしたら解決できるのか？」を合言葉にし、「できない」をなるべく排除し、一致団結してここまで来た。と説明を受けた。

考 察

①ボールパーク構想に関わる行政サポートを評価したい。

民間は600億円をかけて球場を2年で完成。行政は、固定資産税・都市計画税を10年間無料化、市街化調整区域から市街化区域へ変更するなど徹底して民間企業の応援をした。市が民間と一体となってこのプロジェクト成功に向け努力した。

②単なる球場ではなく「パーク」としてしっかりとした「ビジョン」があった。

しっかりとした「ビジョン」があり、この球場を中心とし、商業部分はもとより、観光・産業・スポーツ等の分野において近隣市町村も巻き込みリードしていこうとする「まちづくり」の意気込みを感じた。

③スポーツツーリズム・スポーツタウン構想に活かしたい。

当市では、空手・サイクリングを中心にスポーツツーリズム・スポーツタウン構想を提言している。武道館建設も視野に入れていると思うが、官民連携して取り組むことはできないか検討したい。



■ 『さっぽろグローバルスポーツコミッションについて』

日時：令和5年7月20日（木） 9：30～10：30

場所：ORE札幌ビル（北海道札幌市）

目 的

スポーツツーリズム・スポーツタウン構想の参考にする。

視察先の概要

道の中央やや西側に位置し、人口は195万人を超える国内4番目の都市。現在、札幌駅を中心に地下鉄網が広がり、駅を核に都市機能が集積。毎年多くの観光客が訪れる。北海道新幹線は2030年度末に札幌駅まで開通予定。

人口：1,957,291人 議員定数：68人【R5.4.1時点】

令和5年度一般会計当初予算額：1兆1,922億円

内 容

さっぽろグローバルスポーツコミッション（以下、SGSC）は平成28年に発足し、参画団体は、北海道・札幌市・札幌商工会議所・札幌観光協会・札幌スポーツ協会・（株）札幌ドーム・（公財）札幌国際プラザ。アドバイザーとして、日本スポーツツーリズム推進機構。

札幌市から運営費補助金として給与相当額を計上。派遣元企業へは一部負担金を交付している。

【SGSCの目的】

北海道・札幌市の豊富なスポーツ資源を最大限活用することにより、国際競技大会や事前合宿・スポーツ関連会議等スポーツイベントの誘致・開催支援活動を推進し、北海道・札幌の魅力発信を図るとともに、市民や団体の多様な交流を支え、地域活性化と交流人口拡大に資することを目的とする。

活動の柱として、3つの事柄に分けて活動している。①国際大会・事前合宿・スポーツイベント等の誘致②スポーツツーリズムの推進③スポーツボランティア「スマイル・サポーターズ」

①国際大会・事前合宿・スポーツイベント等の誘致

○国際スポーツ大会・国内外からの事前合宿の誘致・支援

②スポーツツーリズムの推進

○会議プロモーションの実施・海外メディア等の受け入れ

- 道内連携によるスノーリゾートシティ化の推進
- ③スポーツボランティア「スマイル・サポーターズ」
 - スマイルサポーターズの管理・登録者の募集
 - スポーツ大会やイベント等への派遣
 - 研修会の企画・運営

考 察

スポーツ庁は、「する・みる・ささえる」といった多様なスポーツを通じてスポーツ参画人口の拡大を目指している。札幌では、これを①する「大会・合宿誘致」②みる「ツーリズム」③ささえる「ボランティア」と分けて考えていた。

①する 大会誘致、合宿、スポーツイベントについて

本市の場合も宿泊が伴うと一定の予算がかかる。体育館や公民館、企業の研修施設やフェニックス短大跡地利用などの開放を想定したい。

②みる スポーツツーリズム

札幌のスポーツの例を見ると、参加人数が一番多かったのは、アーバンスポーツ（ボルダリング・BMX/スラックライン・パルクール・トランポリン・スケートボード・3×3）などであり、みんなが見たい競技も検討したい。

③ささえる ボランティア

持続可能を考え、若年層を巻き込むため、教育現場等に派遣先を広げコミッションを説明し、スポーツと他分野をつなげる努力は評価する。

ボランティアの登録・管理などのシステムは取り入れるべきである。

④インバウンド誘客

インバウンド誘客について、料金・食事・宿泊等、インバウンドの要望の解決も課題である。



■ 『グリーン・ツーリズムについて』

日時：令和5年7月20日（木） 13：30～15：00

場所：長沼町役場 本庁舎

目 的

当市のグリーンツーリズム促進の参考にする

視察先の概要

道央中央部に位置し、馬追（まおい）山の裾野にのどかな田園風景が広がる。町の約70%が田畑や牧場で占められており、道内有数の米どころとして知られ、他にも多くの農産物が栽培されている。大豆は作付面積と収穫量で道内一。

人口：10,097人 議員定数：12人【R5.4.1時点】

令和5年度一般会計当初予算額：82億5,400万円

内 容

【設立の経緯】

○長沼町GT推進協議会

平成15年に長沼町とJAながぬまとで、地域農業の活性化のためGT研究会を発足。平成16年に国から構造改革特区「長沼グリーン・ツーリズム特区」の認定を受け、町内団体により構成されたグリーンツーリズム事業を進めるための協議会を設置した。

○長沼町GT運営協議会

平成17年にGT事業を実践する農家より構成され設立。58戸の農業者が簡易宿泊所の許可を受け、修学旅行生の受け入れを開始した。

○長沼町産業振興課GT推進室

長沼町産業振興課に設置。推進・運営協議会の事務局を推進室内に置き、GT事業の具体的な運営・実践に努める。

【特徴的な取り組み】

○平成16年に国から認定を受ける。平成17年には認定を受けたことにより、濁酒製造に関する規制の特例措置を受け、5戸の農業者がどぶろくを製造・販売。

≪長沼町グリーンツーリズムの取り組み≫

主に修学旅行の学生を受け入れ。

○田植えや稲刈り、雑草取り、ブロッコリーの収穫等、受入れ時期に農家が行っている作業を受け入れた学生と一緒に実施。食事も農家と学生と一緒に準備を行う。何

も特別なことはしていない。ありのままの日常を受け入れた学生に体験させている。

- 長沼町を訪れた人たちは、学校祭で長沼町産の野菜を販売したり学校を卒業後に長沼町に来て宿泊農家と交流したりと、息の長い付き合いを続けている。
- 平成29年から海外の修学旅行生を受け入れ、インバウンド需要を取り込む。
- 宿泊型と日帰り型があり、コロナ禍で日帰り型が増えた。

《現在の課題》

- 加盟農家の高齢化に伴い、受入農家が減少している。
(加盟農家：平成22年 211戸→令和2年 127戸、受け入れ人数：平成22年 6,068人→令和2年 1,434人)
- 新規加入農家の発掘が必要である。
- 会員数減少の課題に、若手を育成していく方針。

考 察

①移住促進

グリーンツーリズムで、移住定住につなげたい考え方とは違い、移住定住をあまり意識していなかった。

②教育・食育

修学旅行利用者からの不満はなく、教育上、食育上でもグリーンツーリズムの経験・体験は意義が大きいと考える。

③インバウンド

インバウンドとの関わりは平成29年に台湾の修学旅行生35名を受け入れた。当市も県より要望があり台湾より研修を受け入れた。アフターコロナになり、促進が期待される。

④今後の展望

当市では、農家民宿は7軒であるが、長沼町のグリーンツーリズムを見習って経済活性化、まちおこしに意欲を上げ、今後、農家民宿が増えることを望む。



■『花の拠点 はなふるについて』

日時：令和5年7月21日（金） 9：30～11：00

場所：花の拠点 はなふる（北海道恵庭市）

目 的

花を拠点としたまちづくりの先進地から学ぶ

視察先の概要

道の西部、札幌市の南に位置する。古くは穀倉地帯であったが、現在は交通条件がよいことから宅地開発が進行し、工業団地も整備され、都市化が進展。花苗生産は道内有数で、60年前から花のまちづくり運動を積み重ねてきた。

人口：70,069人 議員定数：21人【R5.4.1時点】

令和5年度一般会計当初予算額：309億6,500万円

内 容

恵庭市は、市民活動を中心とした「花のまちづくり」が注目されていた。また、道と川の駅「花ロードえにわ」には年間100万人を超える人々が訪れていた。

「花ロードえにわ」は、平成17年に建物オープン。平成30年度改修工事、デリシャス（株）を公募により運営事業者を選定。令和2年畜産物直売所を恵庭かのな協同組合が運営。既存畜産物直売所のスペースを1.5倍に増やす。花の拠点はなふる魅力向上施設。令和2年度パークPFI制度を活用し、公募。スターボックス・おむすびえびすを建設。令和3年12月オープン。20年の賃貸契約。建物も事業者負担。宿泊施設新設。平成30年にパークPFIにて建設・運営会社を公募積水ハウス建設、マリオット北海道えにわ運営。令和4年完成。花の拠点センターハウス令和2年改修と同時にRVパーク整備。ガーデンエリア新設。令和2年供用開始。全体で9.6haでガーデンエリアは6ha管理事業者制度を採用し、地代を頂いている。

花の拠点観光入込客数は令和3年88.5万人から令和4年132万人と、「ガーデンフェスタ北海道2022」の影響を勘案しても大幅に増えた。様々な施設を備えたことで、知名度向上、消費拡大、雇用創出等に効果が出ていると評価している。課題は維持管理費。地代などで市の収入は5千万円から5800万円。管理費などの経費は1億円余りとなることから5千万円程度の維持管理費がかかる。また、もう一つの課題は現在散策路のみの利用となっている「かわまちエリア」の利活用。

令和4年度の各施設売上高の調査をした結果、整備前の2019年と比較し約5億円増加。来訪客数190万人、かのな協同組合売上6.5億円花ロード3億円となった。

令和5年7月13日、を「花の記念日」とし、1日で7万人訪れた。

マリオットホテルでは、インバウンドが増えはじめた。また、最近の特徴として、ロングステイが増えた。7泊8日でゴルフ場の周遊などが人気。1日2000円分のタクシー利用券を渡し市内回遊を促している。6月の実績では600人配布のうち、400人分使用。また、市内回遊には電子マップを使用。QRコードにて検索し、市内の店舗や飲食店などがデジタルで表示され、位置情報により案内をしてくれる。グーグルマップと似ているが、まちの表示がイラストチックでかわいい。積水ハウスが提供してくれたソフトを利用し、市域全体へ拡大。

オープンガーデンは、個人のお庭を拝見させていただくのだが、ルールを無視し、オープンに難色を示す個人宅もあることから、コロナ後は外から見ていただくことを基本的なルールとした。また、長時間の駐車にも苦情があり、徒歩にて回遊を勧めている。個人宅への補助金はないが、町内会の花づくり、団体へは補助金がある。また、花いっぱい販売会があり、その時安く苗を販売している。

考 察

世界文化遺産富士山に抱かれる本市としては、「花」との相性は抜群と考える。

①道の駅などの複合施設

「はなふる」は花をテーマとした複合施設。広々とした敷地内に花いっぱいのガーデンにほどよく配置された観光施設。当市の道の駅などの参考にしたい。

②民間活力

Park-PFI方式で、カフェ・レストラン・売店・子どもの遊び場の公募対象に活用することは有益である。

③オープンガーデン

市街地のオープンガーデンを本市も実施できたら、歴史ある二の岡・東山地区を筆頭に地域の活性化になると考える。

④防災拠点

広々とした敷地のため、防災拠点、地域交流地点としても有効活用すべきである。

